

僕は軟式野球部に所属をしています。小学生の頃、中学校へ入学したら絶対に「野球部」に入部したいと思っていました。ただ、僕が入部する前は部員数が少なく、もしかしたら廃部になってしまうかもしれないと聞いていたのでドキドキしました。しかし、僕を含め九人が入部したので、部員は全員で十五人となりました。でも、夏の大会で三年生が引退し、二年生の先輩一人と僕たち一年生九人で十人となりました。

僕は、中学生になってから野球を始めました。十人いる中で未経験者は僕を含めて三人。最初はキャッチボールも上手くできなくて、バッティングでは、バットにボールが当たりませんでした。あんなに中学生になつたら野球部に入つてがんばろうと思っていたのに、なかなかうまくできず自信を無くしていました。そんな中、僕に一番声をかけてくれたのがキャプテンの後藤先輩でした。優しい言葉だけではなく、時には厳しい言葉もかけてくれました。試合前などのみんなが緊張しているときは、

「緊張するより、声を出して楽しもう。」

と、安心できるような言葉をかけてくれました。他にも練習の準備をするときも、みんなに早くするように呼びかけ、部活に対して誰よりも熱心に取り組んでいました。僕はそういった姿を見て、勝ちたいという思いより、なんとか先輩の期待に応えたいと思い、日々練習をしました。

今年の夏の大会、この大会で一緒にがんばってきた後藤先輩が引退です。一試合でも多く一緒に戦いたいと思いました。

一回戦目はいつもなかなか勝てない金屋中学校でした。しかし、

その日は勝てる気がしました。お互い点を取り合う試合になり、最後は逆転サヨナラで勝利することができました。そして、二回戦目は小坂井中学校が相手でした。なかなか点を取ることができず、自分たちもミスプレイが多く出てしまい、厳しい展開になりました。でも、みんなで最後まで声を出し、なんとか一点を返しました。いつもはなかなかヒットを打つことができない僕ですが、先輩のためになんとか打ちたいという気持ちが勝り、センター前ヒットを打つことができました。ただ、反撃はここまで。結局負けてしまいました。後藤先輩と一緒に戦う試合が全て終わりました。試合後、これまでの先輩のがんばりを顧問の先生から聞きました。

後藤先輩が入部した時は四人同級生がいたそうです。しかし、夏を迎える前にはどんな人数が減ってしまい、最終的に後藤先輩一人になってしまったそうです。そのときの三年生も引退し、同級生もいなくなり、しばらくは二年生五人と後藤先輩一人の合計六人の野球部だったと聞きました。おそらくずっと心細かったと思います。試合ができない悔しい気持ちがあつたのではないかと思います。その後、僕たち九人が入部したことで試合はできるようになりました。しかし、一人でキャプテンとしてチームのことを考え、僕たち後輩を引っ張っていくというのは、とても大変なことだったと思います。

僕が同じ立場だったらどうしようと考えました。僕の周りには同級生がいて、いつでも相談できるし、冗談を言い合える環境です。とても一人でチームを引っ張ることはできないと思いました。そう思うと僕たちの前では決して弱音を吐くことがなかった先輩は、とても偉大で、信頼できる先輩でした。

その後藤先輩が引退。とても寂しいし、今後の部活動が不安になりました。でも、今まで先輩が僕たちにしてくれたことを今度は僕たちがする番だと思いました。先輩が教えてくれたことを今後は僕たちが後輩に教える番です。後藤先輩の姿をずっと見てきた僕たち

だからできるはず。今はそう思っています。

後藤先輩の姿で一番印象に残っていることは、いつでもだれよりも声を出し、部員それぞれに声をかけ、アドバイスをくれることです。そこで僕はよく、打つときやボールを捕るときの体の動かし方を学びました。特に何回も言われたのは、

「ボールが来たときは低く構えろ。」

ということでした。また、先輩は顧問の先生に疑問をぶつけて、自ら学びに行く姿勢がとても印象的でした。自分が学んだことをその場で挑戦し、後輩たちにも丁寧に教えてくれました。そのおかげで僕たちもだんだん上手にプレイできました。

これからは、僕たち二年生が中心となって野球部を盛り上げていく番です。僕はまだ技術的には人に教えられるレベルではありません。でも、後藤先輩を含めたみんなが僕の支えになってくれたように、僕もみんなの支えになり、少しでもチームに貢献できるようにになりたいです。

このチームに僕がいてよかったと思ってもらえるよう、日々の練習を大事にしたいです。先輩や先生、同級生そして後輩。みんなの支えがあつて今の僕がいます。先輩から受け継いだこのチームを大切に、野球を楽しみたいと思います。